

議事録 概要

第3回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～

テーマ：ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚について

日時：令和7年7月24日（木） 午後2時00分～午後4時30分

場所：東公民館 ホール

参加者：54名 市出席者：森市長

《市長のテーマ説明》

1 まちづくりの理念

理念：「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち」

「ひとりひとりにやさしい」：個々の市民の個性と価値観を尊重し、共生を目指す。

「ささえあいのまち」：市民一人ひとりが互いに支え合い、地域全体でサポートし合う関係を築く。

理念の原体験

共働学舎での共同生活：多様な人々と役割分担を行い、調和の取れた社会をつくる経験から学んだこと。

阪神・淡路大震災でのボランティア活動：災害時に見た協力の精神が、地域社会の大切さを再認識させた。

2 財政の現状と課題

現状

貯金：約400億円（そのうち50億円は財政調整基金）。

借金：約700億円。返済状況は安定しており、計画通りに進行中。

課題

構造的赤字：収入562.9億円、支出569.2億円。毎年約6.3億円の赤字が生じており、このままだと財政調整基金が10年後に枯渇する可能性。

持続可能な財政運営：支出削減を進めつつ、長期的な収支バランスの改善が急務。

今後の対応策

支出の見直しと効率化により、年間7億円の削減を目指す。財政基盤を強化し、将来に向けた安定した財政運営を確立する。

《対話》

1 参加者【新駅設置について】

・JRの駅が少ない（川西～宝塚間）ので、駅を増やすことで住宅地の価値が上がり、税収も増えると考えている。

・昔、正司市長に駅増設の要望をした際、費用は1億円だったが、今はさらに高額だと聞いている。

→市長

- ・中山寺駅が開設されたことは大きいですが、JRの駅数が少ないことは理解している。
- ・駅設置には多大な費用がかかるため、市民の皆さんの意見が多ければ検討。
- ・駅建設には費用がかかるため、自治体と国の協力が必要。

2 参加者【バス問題、歴史資源のPRについて】

- ・地域の高齢者から「バスがなくて困る」という声多数。小型の巡回バス（マイクロバス）導入を希望。バスが「人数集まらなると出ない」仕組みは不便。
- ・宝塚市には古墳やお寺など観光資源あり。もっとPRして人を呼び込むべき。
- ・過去にスーパー誘致をした際、スーパーの動きが速かった。住民の声にすぐ動く市政を望む。

➡市長

- ・バス問題は運転手不足で新路線は簡単に増やせず、無理に増やすと既存路線が撤退するリスクもあり慎重な検討が必要。
- ・古墳などの価値は理解しており、歌劇以外の魅力も発信していきたい。
- ・中山台において、公民連携での再開発を予定している。その中で、公共交通の課題についても考えていきたい。
- ・市民の声は大切。すぐに応えられなくても、必ず受け止めている。

3 参加者【宝塚の魅力とインフラ整備について】

- ・道路が狭い、飲食店が少ない、観光インフラが不足している。
- ・新名神を活かし、外国人向けの観光地にしてみてもは。

➡市長

- ・宝塚は地理的に難しい位置にあり、インフラ整備が困難な部分もある。
- ・過去の急激な人口増加で建設したインフラが老朽化している。
- ・新しい交通手段やテクノロジーを活用し、改善を目指す。

4 参加者【財政状況と資産活用について】

- ・市の赤字を補填するため、未活用資産や土地を売却してはどうか。
- ・福祉を維持するために財政改善が必要。

➡市長

- ・未活用の資産や土地は、開発されていない土地が多く、売却するための費用がかかる。
- ・既存施設を有効活用し、財政改善を進める。

5 参加者【宝塚の変化と開発の提案について】

- ・昔は温泉や企業の別荘が多かったが、不況で衰退。
- ・宝塚市民病院の建て替えやため池の活用を提案する。

- ・山の開発や東西方向の道路整備を希望する。
- ・福祉の増加には収入源の確保が必要。

➔ 市長

- ・開発は、都市景観やインフラの維持を考慮し、現在の方針が変わりつつある。
- ・財政は厳しく、大規模な開発等は難しい。まずは収入源を確保し、地道に町の価値を高めていく。

6 参加者【開発計画と財政について】

- ・収入増加の話や、市の開発計画について考え方を聞きたい。開発が今後の財政にどう影響するのか。

➔ 市長

- ・市民の意見を大切にし、地道に町を改善していきたいと考えている。
- ・市民のためにお金を使いたい、自分のために使うことは避けるつもりであり、財政が許す範囲での改善を目指す。

7 参加者【情報格差と文化財保全の訴え】

- ・SNS やデジタル広報だけでは、情報が届かない市民（高齢者・経済的弱者）がいる。
- ・広報板の廃止やチラシ削減に不安の声。アナログ手段も残してほしい。
- ・雲雀丘など市の周辺部が取り残されているとの懸念もある。
- ・歴史的建築が相続を機に失われており、保存対策が必要。

➔ 市長

- ・紙の「広報たからづか」は継続。ただし費用増で全体見直し中。
- ・アナログとデジタルを両立しつつ、実態に合わせて調整する。
- ・広報板の代替としてLINE 掲示などを活用。広報板は実際あまり見られていなかった。
- ・周辺地域も軽視しておらず、定期的に足を運んでいる。
- ・歴史的建物の保存は重要だが、市だけでは対応が難しく、課題として受け止めている。

8 参加者【障害福祉基金と小規模団体の声の反映を要望】

- ・山本駅周辺で小規模に障害者支援を提供している。財政は厳しいが継続中。
- ・障害福祉基金の見直しについて、どの団体と協議するのか具体的に知りたい。
- ・小規模団体として、協議から排除されないか不安。
- ・給食費値上げ時の事例を挙げ、「小さな声を大切にしてほしい」と要望。

➔ 市長

- ・議論は「自立支援協議会」の下部組織「あり方検討会」で実施。計 15 団体（宝障連など）と市民代表が参加予定。
- ・宝障連だけが代表とは考えていない。小規模団体からの正式な要望も重視し、自ら目を

通す。

- ・全体のバランスと納税者視点を踏まえた対応を行う。
- ・意見はぜひ文書で提出してほしい。

9 参加者【親なき後を見据えた障害者ケアモデル構築の提案】

- ・娘が精神障害を抱え、30年以上家族中心で介護している。
- ・親も高齢となり、家族でのケアは限界にきている。
- ・宝塚市内で、精神障害や高齢者が共に暮らせるモデル施設の設置を強く希望。
- ・市の財政状況も理解するが、国や市での新しいビジョンづくりを。

➡ 市長

- ・全国共通の深刻な課題であり、心中などの痛ましい事例も発生している。
- ・国レベルでの医療・福祉政策の影響が大きく、市単独での対応には限界がある。
- ・すぐに約束はできないが、少ない財源を工夫して対応を考えていく。
- ・市民の意見を踏まえ、共に知恵を出し合いたい。

10 参加者【高齢者の墓地管理における支援について】

- ・宝塚市の福祉サービスの充実に感謝（緊急時の連携や支援など）。
- ・川面墓地に夫の墓があるが、高齢の自身が一人でお墓の管理をするのが困難に。
- ・市営でないため支援が難しいと断られ、悲しい思いをしたことがある。
- ・現在はシルバー人材センターに依頼できるようになり感謝。
- ・市長に、今後も市営以外の墓地でも支援の声を届けてほしいと要望。

➡ 市長

- ・話をしっかり受け止めた。
- ・川面墓地の件については、確認する。

11 参加者【対話のオンライン中継と財政情報の公開について】

- ・対話ひろばに来られない人の声が届かず残念。
- ・ウェブ中継やオンラインで意見を受け付ける仕組みを導入してほしい。
- ・財政情報を全てオープンにし、600以上の事業ごとの予算や支出の現状を市民が理解できるように説明してほしい。
- ・減らすべきものと増やすべきものの理由を丁寧に伝え、合意形成を図ってほしい。

➡ 市長

- ・ウェブ中継は慎重に検討中。意見は文書やメールでいつでも受け付けている。
- ・主要事業は公開しているが、詳細が複雑で分かりづらい点もある。
- ・政治的な配慮なしにできる限り透明にしているが、公開方法の工夫が必要。
- ・11月の議会で財政再建の詳細な説明を予定している。

・市民からの具体的な公開方法の提案を歓迎する。広聴制度を活用してほしい。

12 参加者【交通安全の要望】

・平井山荘付近の踏切停止線が消えており、安全面で不安がある。再設置してほしい。
・どこに要望すればいいかわからないため、まず市長に相談。

➡ 市長

・問題は認識している。現地を確認し、適切な対応を検討する。

13 参加者【観光振興と財政改善の提案】

・日本全体で外国人観光客が増加しているが、宝塚市では観光客が少ない。
・7億円の財政問題を考えると、観光に注力して人を集め、経済効果を上げる必要がある。
・天童市の将棋の町の成功例を参考にし、観光課などの専門部署を設けて戦略的に施策を進めてほしい。
・外国人観光客や全国からの集客で地域活性化を目指すべき。

➡ 市長

・宝塚市には観光にぎわい課があり、担当者が観光振興に尽力している。
・外国人観光客の急激な増加は課題も多いため慎重に進めたい。
・宝塚の魅力を高めることを重視し、引き続き検討・努力していく。

参加者 14 【障害者福祉の理解促進の提案】

・支え合いのまちづくりに大いに期待している。
・障害者の視点や困難を市職員が実感し理解することが必要。
・新入職員に市役所周辺で介助なしの手動車いす体験を義務付けてほしい。
・市長自らも率先して車椅子体験を行い、福祉意識を高める取り組みを推進してほしい。

➡ 市長

・自身も過去に病院勤務時代に車椅子体験をし改善を図った経験がある。
・障害者の視点を理解することは非常に重要であると認識している。
・提案を前向きに検討したい。

参加者 15 【タバコの取り締まり強化、花火大会再開について】

・歩きタバコやポイ捨てに関する条例を広げてほしい。
・特に公園や堤防のベンチ周辺、お子さんが遊んでいる場所でのタバコ禁止区域を拡大することを希望。
・花火大会が財政難を理由に中止されているが、他にも中止の理由があるのか疑問。

➡ 市長

・タバコに関しては経験不足のため、調査したい。吸わない自分としてはいいと思うが、

吸う方々の意見も考慮し、整理していきたい。

- ・花火については事故や騒音、近隣住民への配慮のため、ハードルが大きく上がった。
- ・市が主催する場合、警備費用が膨大であり、民間の開催だとコストが抑えられるが、条例の問題があるため難しい。
- ・現状では再開は非常に厳しい状況だが、不可能ではない。

参加者 16 【財政について】

- ・財政赤字が厳しく、収入増加は望むが市民税の増税には反対。
- ・収入源（市民税、その他）の内訳を知りたい。
- ・ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまちを目指し、市民としてできることがあれば教えてほしい。

➡ 市長

- ・収入の大半は税金（市民税、固定資産税など）で、宝くじなど一時的な収入もある。
- ・資産売却は一時的な解決策であり、長期的には不十分。
- ・市民には市政に関心を持ってもらいたい、市の協議会などに参加して意見を述べることも大切。

参加者 17 【ヘルプマーク、職員の意識改革について】

- ・ヘルプマークの認知拡大を。
- ・市の職員の意識改革が必要で、特に障害福祉課の職員の学力や知識に問題がある。職員のアイデア不足もあり、改善を求める。

➡ 市長

- ・職員の能力は他市町村と比べて優秀だと感じているが、さらに勉強や意識改革が必要。
- ・職員一同、さらなる向上を目指して勉強していきたいと考えている。

参加者 18 【市役所の対応、事務の効率化について】

- ・宝塚市役所の迅速な対応に感謝（危険箇所の指摘後、対応が早かった）。
- ・市役所の郵送物について、書類の郵送が多すぎて無駄を感じる。メールでの通知で十分な場合もあるので、効率化を提案。

➡ 市長

- ・市役所職員は連携を大切にしており、問題解決に迅速に対応している。
- ・紙の削減、郵送等については、職員が真剣に取り組んでいるが、さらなる効率化については検討する。

参加者 19 【市民病院について】

- ・市民病院の計画について、これまでの経緯や現在の進捗状況を知りたい。

・高齢者に優しい病院を作り、全国から患者が訪れるような、質の高い病院にしてほしい。

➡ 市長

- ・現在、懇話会と庁内検討会を設置し、慎重に検討中。
- ・コストが上がる中で、より良い病院を作るためには早急に進める必要があると感じている。
- ・8月の対話ひろばで、さらに具体的な話をする予定なので、そこで市民からの意見を求めたい。

参加者 20 【市長への手紙、教育環境の改善について】

- ・市長への手紙や要望がしっかり届いているか不安。
- ・娘が中学校で抱えたストレスや教師の対応に対する不満。
- ・不登校や特別支援教育の改善が必要だと感じている。

➡ 市長

- ・手紙は全て読んでおり、テンプレート的な返事になったが、個別の対応も考えている。
- ・教育委員会が担当しているが、教育の充実には強い関心を持ち、改善を進めるつもり。
- ・時間はかかるが、市民の意見を受け入れ、改善していく方針。